

琵琶協会(千円)。大野恵造作詞平家物語
康頼悲願、大原御幸の二曲の内一曲を出演者
が作曲演奏。出演者：敬称略(錦心流)鈴
木流泉、長谷川錦舟、杉山旗水、友吉鶴心、
山田洲鳳、(錦)水藤五郎、木原綾子、都錦
穂、(筑前)押川旭葉、原島旭粧、小原旭成、
広瀬圭穂、藤巻旭鴻、(薩摩)軽部岳瑞。
(講演)協会顧問大野恵造先生。

京都琵琶協会四月定例茶話会

四月八日(日)昼一時本部平井会長宅、早朝来
の篠つく豪雨を克服して馬場鴨水、矢吹旭美
津、山岡旭清、安住旭康、牧雨水、荒木旭媛、
桜井旭富、平井春嶺、植村真水の各会員並び
に来賓伊達画伯が参集、数氏研修演奏のあと
五月二十七日京絃社主催、協会後援による演
奏会の出演順抽籤や諸般の協議をして小宴、
八時解散した。

ラジオ琵琶放送

四月十二日(日)昼三時十分NHK・FM。本
能寺一半田綾子。川中島一押川旭葉両女史。

訃報

浅見 汀水(長三)氏 心不全のため三月
八日逝去、享年七十八。桃木耳水師について
錦心流の奥儀を極め温和繊細な演奏振りは
定評があった。謹んで哀悼の意を表し御冥福
を祈る。(大阪市旭区新森二丁目一三ノ一〇)

池上 作三 氏 老衰のため三月十四日逝
去、享年九十一。琵琶界に深い理解好意を持
ち有力な琵琶界の支援者で「戦艦大和」「小
督」など数々の名作を残された氏は、元首相
岸信介、同佐藤栄作両氏の叔父君で若くして
池上病院長として活躍された。十六日の告別
式には政界、財界人数百人の外琵琶界からも
多数参拝して別れを惜しんだ。謹んで哀悼の
誠を捧げ御冥福を祈る。(東京都板橋区板橋
一丁目二十一番四号)

告知

- 京都琵琶協会の対賞味会 四月二
十九日(日)昼一時会員梅原旭富女史宅(向日
市かえて町山端二。阪急電車西向日町駅下
車)。
- 竹下翠風新曲発表演奏会 五月三
日(休)夕六時東京新宿駅西口前安田生命ホール。
- 日本琵琶協会関西支部名流演
奏会 五月六日(日)十時半一十七時大阪南区
なんば高島屋ローズ劇場。独演二十二曲、合
奏六曲。(千円)
- 京都琵琶協会一泊定例会 五月十
二日(出)午後二時国鉄須磨駅集合。会場須磨
保養センター。出欠を平井会長まで連絡の
こと。
- 錦心流一水会中部、関西、北陸各支部
親善演奏会 五月二十日(日)正午富山市山
王町日枝会館、主催一水会富山支部。

○京絃三〇〇号記念演奏会 五月二
十七日(日)昼、京都東山安井金比羅会館。主
催京絃社、後援京都琵琶協会。

○琵琶名流大会 六月十六日(出)正午
東京日本橋証券会館ホール、主催日本琵琶
協会。(千五百円)

あ
アツというまに桜花が散って若葉
すがすがしい新緑の五月となった
●本紙「京絃」が三〇〇号を迎えんと
するに際し各地から御懇篤なお祝詞
を頂戴して編集子は身に余る光栄と感謝感激
に堪えぬ●六月特別号に順次掲載して錦上華
を添えさせて頂く●別掲の通り五月二十七日
の日曜日に三〇〇号記念演奏会を開催するこ
ととなった●幸い京都琵琶協会の各流派絃友
が挙って協力を惜しまぬと云って下さるのと
東西の一流名手四師が快よく賛助出演をお引
受け賜わり、又東京から錦心流の大家が態西
下して祝詞を述べて下さることになってい
るので当日の盛況を期待して目下着々準備を進
めている●よろしくお願ひ申し上げます。

昭和五十四年五月一日発行(非売品)
編集者 植村 寛 水
発行所 京 村 寛 社
〒569 高槻市津之江北町一ノ二
電話 〇七三六 七三六〇 五一三

琵琶 機関紙

京

絃

第二九九号 京 絃 社

琵琶

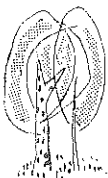
琵琶

(八)

忘れられんとする音の世界

肥後琵琶(中)

村山道宣



山鹿さんは、福岡県は筑後平野にある山門
郡瀬高町清水という部落に門弾きに行つた。
それまで、独りで門弾きしたことなかつた
山鹿さんは、家の門口に立ってはみるが、な
かなか家の中へは入れなかつた。けれども、
その日の宿も確保しなければならず、恥づか
しさを顔に真赤にしながら琵琶を弾いた。一
曲を弾き終り、どうにか仕事をする事が出
来た。そこで、家の人に「この辺にどこか泊
めてくれる所はないでしょうか」と尋ねてみ
た。すると家人は近くの本吉という部落に琵
琶弾きさんが居て、この辺に門付けにくる芸
人さんが、よくその家に泊まるということ
を教えてくれた。本吉のその家に行ってみると、
丁度、家の主人である石橋福太郎という琵琶
弾きさんが、門弾きから帰って来たところ
であった。宿を頼んでみると「良かです、泊
まんなさい」と心よく云ってくれた。(門付
けをする芸能者達は、このようにして互に

助けあっていたのであろう。)
翌日、山鹿さんは溝口(現筑後市)という
部落に門弾きに行つた。ある農家では、近所
の人が二・三十人、山鹿さんの琵琶を聴きに
集まってきた。(このように一軒の家の座敷
に多くの人を集めて聴かせる琵琶のことを、
肥後やその周辺では座敷琵琶といっている。)
その家の主人は、また自分の家の「わたま
し」をしていなので、是非わたましを語っ
てほしいと山鹿さんに頼んだ。山鹿さんが今
わたましは稽古中で、まだ上手に出来ないか
らと云って断ると、「良か、何でも良か、
あなたの知つとること良かけん。」と主人
は云ってくれた。主人の注文は、最初に何か
「祝物」を語ってくれということであった。
山鹿さんは祝事には「岩戸開き」その他の目
出度い語り物や、正月に唄う端唄などを演ず
ることにしていった。

山鹿さんは、先ず、祝の端唄を唄い、そし
て、段物を一段語つた。すると近所から聴き
に来ていた一人のじいさんが「釜さん、あん
たは『剣の巻』を語つたこつのあるか」と尋
ねた。(筑後地方や肥後北部では、琵琶弾き
さんのことを釜節と呼ぶので、じいさんは釜
さんと呼んだのであろう。)山鹿さんが知ら
ないと答えると、「なん／＼剣の巻を知らんち
や／＼ 剣の巻を知らんと何になる／＼」じいさ
んは居丈高に山鹿さんを叱つたのである。そ
の晩、山鹿さんは剣の巻のことが気になり、
どうしても眠れなかつた。
翌朝早く暇乞いをして、山鹿さんが出掛け
ようとする時主人は引き止めた。「今日は九
月九日の節句で栗飯も出来とるけん、早う栗
飯どん食わんのう／＼そしてゆっくりして行
たら良か。わざわざ遠くから来とるとに五日
でも十日でも何日でも泊まって良か。この辺
りは広かけん近郷を門弾きして廻らんのう。
何日泊まっても米は貰わんばい。」と親
切に云ってくれた。しかし、山鹿さんは一刻
も早く本吉の石橋福太郎さんの所へ戻り、剣
の巻のことを尋ねてみた。山鹿さんは
主人に丁寧に礼を云い、本吉へと向つた。山
鹿さんは福太郎さん方に戻り、昨日の溝口で
のことを話し、剣の巻のことを尋ねてみた。
福太郎さんは剣の巻のことは知つてはいるが、
自分はまだ語れないと云っていた。この剣の
巻というのは、平家物語の剣の巻に由来する
北九州から熊本にかけて広く親しまれた語り
物の外題のようである。恐らく琵琶師達は、

わたましの祝事の際、剣の巻などの語り物も語ったのであろう。剣の巻は、琵琶師によって師匠から容易に教わることの出来ない奥伝の語り物の一つであった。

盲僧から学ぶ

その後、暫くして山門郡三橋村に門弾きに行つた折、山鹿さんは滑稽物の得意であつた竹沢こうぎよくと云う琵琶師に出合ひ、三週間程一緒に門弾きして廻つたことがあつた。(滑稽物のことを肥後琵琶では一般にチャリ物と称している。チャリ物は、演唱の最後をお笑いで締めくくる場合に語られることが多い。時には段物の合間に気分を変えるために語られることもある。)山鹿さんは、竹沢さんを初め仲間の琵琶師達から機会ある毎にチャリ物も含む多くの語り物を習ひ覚え、また、その代りに自分の知っている外題を教えたりもした。芸達者な素人から「魚づくし(チャリ物)などを教わつたり、座敷を拾つて歩いて浪曲師から浪曲を習つたりしたこともあつた。こうして山鹿さんの語り物のレパートリーは、次第に増えて行つた。



た。山鹿さんは仲間の竹沢さんが、わたましの柱だての中で「一本の柱は一天子、二本の柱は日天子。」と云っているのを以前から不思議に思つていた。そこで坂本さんに尋ねてみた。坂本さんは「一天子というのは何神さんか？おら一天子というのは知らん/仏さんのことは知つてるばつてんが、神さんのことは知らんぞ。その二本の柱は日天子というのとは間違つたらんが。」と云つていた。「じゃあ、一本の柱は何さんの護り神ですか」と尋ねると、「それはお月さんたい」と教えてくれた。また山鹿さんは坂本さんに、まだ全部憶えていなかったわたましの詞章を、その折りに最後まで教えてもらった。

「先ず、一番の柱、たてぞめの柱は大黒柱と清め奉る、月天子の護らせ給う。第二番の柱は、日天子の護らせ給う。第三番の柱は、三世の諸仏、第四番の柱は、四天王宮地岳三社大権現、家内安全と護らせ給う……。」

山鹿さんには、同業の琵琶師達との付き合いばかりでなく、坂本さんのような天台宗の盲僧との付き合いもあつたのである。山鹿さんは、このような様々な付き合いの中で、自らの仕事に必要な事柄を次第に身につけて行つたのである。

乃木將軍と近江沙々木神社

辻 旭 城

国鉄安土駅の南方に、小さな森を境内に持つお宮沙々木神社がある。祭神は少彦名命、大彦名命で、もとは瓢箪山古墳の被葬者ともされている。狭々城山君の氏神であつたが、



時 五月三日(休) 午後六時
所 安田 生命ホール
(東京新宿駅西口前)
竹下翠風 演奏会
新曲発表
「勸進帳」 翠風演奏
(七時半ごろ)
翠風琵琶シリーズ第一集
(七月発売)

平安時代の中期に新たに台頭してきた優秀な武士団佐々木氏がこの狭々城山君を併呑し、それ以後は佐々木神社とも称せられて、近江源氏、佐々木家の氏神として、厚く崇敬されてきたのであつた。

乃木希典將軍は、元暦の昔宇治川の合戦に源義経軍の佐々木四郎高綱、梶原景時の渡河先陣争いをして、馳名を轟かした高綱の後裔で、宇多源氏に属する家柄である。

將軍は敬神崇祖の志強く、深く沙々木神社を崇敬せられ、事ある毎に伊勢皇太神宮、大和橿原神宮、そして沙々木神社に参拝した。

満州の広野に暗雲が立ち込め、遂に明治三十七年(一九〇四)二月十日、日露両国は国交断絶を迎えた。

明治三十四年五月、四国善通寺の第十一師団長を辞して北海道奥深くから那須野に移り、作男と共に田畑を耕し文字通り百姓生活に入つていた將軍は、このとき召し出されて近衛留守師団長に補せられた。長子勝典は、歩兵第一連隊附の中尉として奥大将の第二軍に編成せられ、四月十六日出征の途に上つた。

また次男保典は留守第一師団第二連隊附の少尉で、これも近く出征することになっていった。五月二日、將軍は第三軍司令官に転補せられ、さよふ戦地に赴くことになった。それで乃木一家は、父子三人が戦線に立つことになったが、將軍は「三人が戦争に出るのだから、誰が先に死ぬかも知れぬ、たとへ誰が死

んでも葬式を一つ出してはいかぬ、棺桶が三つ揃うまで待っておれ」といひ残して五月二十七日東京を出発、翌二十八日の午後近江安土を通過した。

この知らせを受けた沙々木神社の宮司は、將軍の出征を構うべく能登川駅に向つた。將軍は車窓から顔を出して宮司に「これを長州から郵送奉獻しようと思つていたが、いま幸いあなたに逢つたから宣しく取計らつて下さい。」と、色紙に認めた和歌を渡され、神社祭祀の事など深く依頼して勇ましく出発した。

申辰の春 源 希典
うからやから とほく今日いくさたち
遠つみおやも きこしめすらむ
明治二十七年二月、丁度十年前のこと。宮司が東上して將軍邸を訪ひ、種々奔走尽力を煩わした神社崇高会の相談をした時、將軍は崇高会資金として金三百円を寄進しようとして約束されたが、このたび出征に際し八幡丸より町寧左の手紙を寄せられた。

拜啓愈御健勝大慶存候、然ば前年御社格資金の儀に付、寄附記名仕候金三百円の儀は、軍事公債額面を以て相備置候間、貴方御手順等相調上は引渡可至留守宅に申残候今回外征出陣候に付此段申進候 草々敬具
明治三十七年六月二日
於八幡丸航海中 乃木希典

沙々木神社宮司佐々木定雄殿
將軍が約束を重んじられたこと、又深い覚悟のあつたことがうかがえる。

六月六日、將軍は大連灣の塩太港に上陸、同日陸任して陸軍大将となつた。日露陸戦は、実に將軍最後の奮闘であつた。壮烈無比の旅順攻囲戦序幕は、全日本人注視の内に將軍によって開かれた。この戦闘こそ日本戦史上未曾有の大激戦であつた。

將軍はいつもよく第一線を視察した。幕僚たちはこれを止めたが將軍は聞き入れなかつた。部下將兵に対して平素から慈悲深く、忠勇無比の將軍のもとで部下は死をいとわず猛然奮進した。この猛攻に、さしも難攻不落を誇つた露軍の堅城も遂に落ち、ステッセル守將自ら出でて我軍門に下つた。そして日露戦争も旅順の陥落によって、事実上勝敗は半ば決したのである。

第三軍は引続き北進して、奉天の大激戦に参加し更に偉勲を建てたが、この間、長男勝典は金州に於て名譽の戦死を遂げ、また次男保典は爾靈山の激戦で護国の鬼と化した。明治三十八年九月五日、日露平和條約の調印が終り、出征將兵は漸次引揚げ、將軍も翌年一月十四日日出度く凱旋した。

るとき、將軍は自邸の二階八畳の部屋を清掃して大帝の御真影を奉安し遙かに宮城を拜して正装端座、軍刀を以て美事に割腹殉死、静子夫人も喪服を着用、將軍と並んで白鞘の短刀で咽喉を貫き自刃された。

九郎判官義経 (一)

ばくすい



寿永二年七月二十五日、平家はその邸宅を焼き払って慌だしく都を落ちて行った。越えて二十八日には、北より木曾義仲、南より源行家、源氏は二た手に分れて京に入る。後白河法皇は両人を御所に召して平家追討を命ぜられた。そして京都の治安は、義仲が全責任を負い平穩をはかる事になったが、木曾の山中に育ったため禮儀作法もよくわきまえず、京の言葉にも慣れていないため、何かにつけて法皇の近臣たちと意見の相違、感情の対立が避けられない。義仲の主張は筋が通っていても、感情のつれは如何ともしがたい。

た。頼朝は義仲に対して、行家を引き渡すか、または義仲の子義高を人質として鎌倉に差出すよう要求した。義仲は穩便に頼朝と協調するため、叔父行家を渡す訳にはゆかぬので、我が子義高を頼朝にあづけた。

その頃天下の形勢は、支那の魏・呉・蜀三国の対立のように、東に頼朝、西に平家、そして中央に義仲と、三つの勢力が鼎立していた。その義仲の勢力が今や行家との分裂で衰えるを感じられ、やがて閏十月備中水島の戦いで、船戦争に不慣れた義仲軍が盛り返して来た平家軍のために大敗した。今まで義仲と不和の法皇近臣たちは、義仲を侮って之と一戦を交える構えを示してきたので、之に挑発された義仲は、寿永二年十一月十九日、兵を率いて法皇の御所を囲み、近臣等百人余りを斬り、ついで摂政基通を下ろして十二歳の少年師家を内大臣に推挙し摂政とした。この時、官職を奪われた者は数十人にのぼったが、四年前に平清盛が行って、結局自分の墓穴を掘った我儘を、今度は義仲が繰返すこととなった。

このため頼朝は、平家を討つ前に先づ義仲を倒さねばならぬ。義仲を倒したあとで平家を亡ぼすのは大問題であるが、頼朝は富士川で平家を敗北せしめたあと三、四年、関東を平定して充分の力を養った上、戦術にかけて

は古今の名将を自分の代官として持っていた。それは外ならぬ自分の弟義経である。義経一幼名牛若丸一は、父義朝が殺された時僅かに二歳、母のふところに抱かれて雪の大和路をさまよひ、やがて母や兄たちと別れて独り鞍馬寺に入ったが、生長するに従って父の末路を悲しみ、源氏再興を志して専ら兵法研究にいそしんだ。やがて京の五条の橋で武蔵坊弁慶と試合して美事これに勝ち、弁慶を一生忠実の家来として遠く奥州平泉に下って、この地に強大な勢力を持つ藤原秀衡をたより、その尊敬と愛護のうちに平家討伐の機会を待った。

治承四年、高倉宮に仁王が旨を下して諸国の源氏を召された時、義経は二十二歳であった。時節到来と、義経は勇躍出発せんとしたが、秀衡はこれを押さえ、今暫らく形勢を見極めた上になされと留めた。然し義経は秀衡に無断で出発したので、秀衡はあとから佐藤繼信、忠信の兄弟を附けてくれた。後に義経が危険に陥ったとき、その身代りになるのはこの兄弟である。

治承四年十月、富士川の対陣が終って頼朝が鎌倉へ引き上げる途中、黄瀬川の宿に於いて初めて義経と対面し、共に懐旧の涙にくれた。その義経、本意ならずも鎌倉に足踏みすること四年、今やいよいよその武略を発揮すべき時を迎えた。源平盛衰記に「木曾が浪籍奇怪なり、早く追討すべし」とて、蒲御曾司

範頼、九郎御曾司義経、兩人を大將軍として数万騎の軍兵を差副へられ、範頼・義経上洛と披露す……

頼朝自身は動かないで、弟の範頼を大手の大將軍、義経を搦手の大將軍として発向させた。京を攻める時、大手は勢多、搦手は宇治で、双方とも橋はすでに無い。

義経は、畠山重忠を先陣として宇治川の激流を渡ろうとする。その畠山より先きに、武者二騎が駆け出でた。梶原源太景季、佐々木四郎高綱の二騎である。二人とも頼朝から贈られた名馬に打乗り、梶原が先頭を切った。

この時、佐々木高綱に「いかに梶原殿、この川は西国一の大河ぞ、馬の腹帯を締め直されよ。」といわれ、成る程と思つて梶原が締め直している間に、高綱はつと馳せ抜いて川に打入れ、一番乗り成功して大音声で「宇多天皇九代の後胤、近江の国の住人佐々木三郎義秀が四男、同姓四郎高綱、宇治川先陣ぞ。」梶原は斜に押流され遙か下流に上る。畠山は馬を射られ、水底をくぐって向う岸に着く。木曾の防備は先づ宇治の手より敗れ、戦は京の中へ持込まれたのである。

斯くして義経は「射向の袖春風に吹きなびかせ、白旗サツと差上げ黒煙蹴立てて」御所に伺候した。後白河法皇は御感のあまり一同を名乗らせよとの仰せに、安田三郎義定、畠山莊司次郎重忠、梶原源太景季、佐々木四郎高綱、渋谷右馬允重資らを引合わせる。その

内に範頼勢も勢多を破って京に入る。

木曾義仲は小勢ながらよく戦い、敵の大軍を五・六度まで追返し、ついに力尽きて勢多守備軍の大將今井兼平に逢うため主従僅かに七騎で東に向う途中、大津打出の兵で兼平に逢い、敗残の兵を集めて最後の戦をしたが、無惨にも主従討死した。時に義仲三十一歳、兼平は三十三であった。

義経の活動は敏速で、宇治川の戦が寿永三年正月二十日の朝、義仲を亡ぼしたのはその日の夕暮れ、そして平家討伐のために京の出發が正月二十九日、平家を一の谷に討破ったのは二月七日であった。

琵琶抒情曲 石川啄木



鈴木 比露士作詞

函館の 青柳町こそ悲しけれ

友の恋歌 矢車の花

さすらい続く浮き雲か 波民村をあとにして名も啄木の瓢々と はるばる越えし津軽の海筆の雫も細々と 口を糊する明け暮れも ああ秘め難き情熱の 開きそめたる花の色 憶い粧いてさりげなく誘いし人と連れ立ちて そぞろ歩める函館の 大森浜の夕まぐれ 旅の愁いを運び来て さびさび匂う汐の香を

(演奏会予告)

時 五月二十七日(日)十二時半開演

所 安井金比羅宮会館 (京都市東山区東大路通松原上ル)

主催 京 絃 社 後援 京都琵琶協会

(抽籤出演順)

Table listing performers and their pieces. Columns include names like 花も薔の白虎隊, 艦大和, 戦艦, etc., and their respective pieces like 錦心流, 植村, etc.

いとく浴びる砂浜に二つの影は落とせども
若きがゆえの恥じらいに思いつつみし啄木が
詩にも詠めぬもだしさの花に通うはいつなるか
消しては綴る砂文字は 傍なる人の頭文字
薔薇の君よ匂わしく 頬に流るるさくら貝
その慕わしさからえつひたひた寄する小浪の
首にこそ寄せ啄木が気づかぬほどにひそと呼ぶ
智恵子の名こそ悲しけれ流離の旅の人として
道問う程の事問いて秘めてほとほと帰るさを
二人の袂吹き分ける ああ北国の風荒き
世の中の 明かるさのみを吸う如き
黒き瞳の いまも目にあり
隙の中に咲き続け 心の苑に秘め匂う
函館の花慕いつつ 旅をさまよう啄木が
血にじむ愛の歌日記 夢に抱きし幻も
覚めて果敢なきとつればああその人もよその花
星も冷え冷え石狩の 空知郡の牧場に
嫁ぎ来し身と筆の跡 開くわが身に秋の風
「あわれ恋かな」つぶやきて夜半の火鉢に炭
添えにけり

安住許さぬ故郷慕り

啄木の父一禎が建てた本堂が盛岡の北、岩
手県岩手郡玉山村波民の宝徳寺に在る。本堂
わきの八畳二間続きが、啄木の恵まれた少
年時代の居室だった。書院造りの座敷に、禅
寺らしい風雅がなお漂う。
寺の隣りの啄木記念館の前に、斎藤家の建
物が移築されている。寺を追われた啄木一家
が住み、それも家賃が滞ってこの二階だけを

借りた。啄木が机を据えた表座敷も、暗い粗
壁も土の匂いがした。
石川家は始めから貧乏ではなかった。寧ろ
当時の波民村の上層階級であったが、零落し
て赤貧にあえぐ。この落差こそが、啄木の人
と文学を作る原動力となった。
啄木は隣村日戸村の常光寺で明治十九年に
生まれ、翌年宝徳寺へ移り、幼くして仏門に
入って師の萬原対月に歌道や漢詩を習う。宝
徳寺の住職が急死し、父一禎があとに納まる。
先住の遺族は寺を追われて石川一家を恨み、
村人の同情を集めた。のちの啄木の悲運の伏
線がこの時に敷かれる。

啄木記念館の傍らに、その時代の波民尋常
小学校の校舎が移されている。啄木は学齡一
年前の数え年六才で入学し、二つ年上の女の
子に恋をする、早熟だった。
最初から良い成績ではなかったが、四年生
に上って一番になった。神童だったと彼自身
のちに歌い、自分が天才であり、周りとか
け離れた存在だと思いつく。村の富家で智識
階級と自負し、無知な村民を馬鹿にする父の
性行が自然に移って、強い自尊心で育った。

尋常小学校を四年で修了し盛岡高等小学校
に遊学、高小三年を終え盛岡中学校に進む。
県下の秀才が集まる学校である。盛岡南部藩
の子弟が逆境に立ち、自力で出身出世の道を
切り開く気風を、盛岡中学校は生徒に吹き込
む。その空気にあおられ、啄木は軍人を志望
するが体が小さくて弱い。

与謝野鉄幹、晶子の新しい詩歌にこれが
二年生で堀合節子に会い恋愛に陥る。これが
文学への没入を深めた。授業への熱意を失い、
試験で不正をして処分されたので自ら退学し
て上京、東京に出れば一躍、名を挙げられる
と過信したのであるが、忽ちその夢は破れて
金もなく病に倒れ、失意のうちに父に波民村
へ連れ戻された。
一年半後再び上京、明星派の若き詩人とし
て迎えられ、処女詩集「あこがれ」を出した
が金にならず、盛岡で節子と結婚するが生活
に行き詰まり貧苦に急落した。恥を忍び波民
へ帰って、母校の波民小学校で代用教員とな
ったが、浪漫的、空想的な思想は村人たちに
受け入れられず、遂に校長排斥のストライキを
起こして免職となり北海道へ渡る。明治四十
年、数え年二十二才、永遠に波民を去った。
明治四十五年の死まで、啄木は故郷波民を
歌い続けた。彼の文学は総てここに根ざして
いる。(朝日新聞編集委員大谷晃一)

朝鮮人は誇り高い民族である。日本の支配
下の時代にも、民族の自尊心を捨てなかった。

秀吉の侵略防いだ知将 季舜臣 佐藤忠男

その誇りを親から子に伝えるのに、多くの英
雄や義士の物語が語りつがれたが、そのなか
には日本の侵略に抵抗した人物が多く含まれ
ている。豊臣秀吉の水軍を撃破した名将季舜
臣や、伊藤博文を暗殺して堂々たる法廷闘争
のうちに死刑になった安重根などがそれであ
る。

豊臣秀吉や伊藤博文は、日本では英雄であ
るが、朝鮮人にとっては、かつて朝鮮を侵略
した日本人を代表する元凶なのである。かつ
て日本の学校で彼等を偉人として教えられる
ことは、そこで学ぶ在日朝鮮人の子供たちに
とっては深い精神的な苦痛だった。なにしろ
戦後になってもしばらくは、日本史の教科書
には秀吉の「朝鮮征伐」などと書かれていた
くらい、日本人はそれに無神経だった。

季舜臣は、豊臣秀吉が朝鮮侵略ののり出し
たとき、全羅水軍節度使という地位にあった
將軍である。早くから日本軍の襲来を察知し、
龜缸と称する鉄で装甲した軍船を建造して待
ち受け、数度にわたる海戦でことごとく日本
水軍を撃破して制海権を握った。秀吉の野望
が達せられなかったのは、主として季舜臣の
ひきいる艦隊の活躍と、陸上では義兵と呼ば
れたゲリラの抵抗によるものであった。

しかし、当時の朝鮮の朝廷は高官たちの地
位争いの場であり、名声があがって高官たち
にねたまれた季舜臣は、日本軍と内通してい
たという汚名を着せられて投獄され、一兵卒
に格下げされてしまった。季舜臣を描いたさ

いきんの韓国映画では、これは日本側の謀略
によるものだった、となっている。
秀吉が再び朝鮮侵略に乗り出した慶長の役
では、季舜臣が投獄されているのと、日本側
も水軍力を充実させてのぞんだため、最初は
朝鮮軍が大敗した。しかし、そこで季舜臣は
ふたたび水軍の総指揮官に起用される。彼は
少ない艦船を使って勇戦し、日本水軍を破っ
て形勢を逆転させる。そして撤退をはじめた
日本軍を飽くまでも海上で叩く作戦を指揮し
ながら戦死した。

季舜臣の生涯は、一途な愛国の情熱と、見
事な作戦と、破乱に富んだ運命と、そして壮
烈な最期とによって、誠に英雄の名にふさわ
しい。韓国では季舜臣や安重根は銅像になっ
たり、繰り返し映画になったりして、誰でも
知っているが、日本でもっと知られるべき
であろう。

日本芸術琵琶普弦会三月例会

三月十八日(日)昼一時東京文京区大塚の貸席
京屋に於て開催。伴流謡切第五、六弾法！錦
幽▼城山▼内田隆章▼七郷落▼坂入俊風▼湯
陽江▼青木早水▼利久の最期▼山崎錦▼白
虎隊▼伊与田詩水▼川中島▼日比姥水▼木村
重成▼高田栄水▼衣川▼原田旭鳳。以上研修
を終り小宴の後六時閉会した。(若宮旭登、
平田旭舟、杉山旗水の三氏は金沢に於ける旭
登会演奏会に出演のため欠席)。

前田秋声氏の慰労会
三月十九日(月)松浦秋翠女史の企画で首記の
岐阜県下呂温泉一泊会が催され松浦、阿部両
女史やその門下計十人が出席、各一曲を研修
して和やかな集まりであった。

国東(くにのみ)の琵琶法師

大分県国東町在住の盲僧高木清玄さん(74)
が琵琶を弾きながら経を唱えて歩く模様を三
月二十三日(金)夜九時半から三十分間NHK第
一ラジオで放送された。仏の里といわれる九
州国東から電波を伝わって聴く盲僧琵琶の音
は現代の琵琶で味わうような哀調味は全くな
く底抜けに明るい。国東の風土にはぐくま
れて生きる琵琶法師高木さんの姿はラジオを
通じて彷彿たらしめた。

現代の音楽「エクリプス」

三月二十五日(日)夜十時二十分NHKラジオ。
武満徹氏作、琵琶半田綾子、尺八田島直士、
正直なところあまりピンと来なかった。係！

桜扇会の舞踊会に琵琶演奏

三月二十五日(日)昼京都北野会館に於て花柳
芳麿主催。舞踊二十四題の外中島旭穂女史が
筑前琵琶「伽羅の兜」を演奏好評であった。
外に民謡組曲三番が披露された。

琵琶定例研究会

四月八日(日)昼東京新宿洲鳳会館、主催日本